



運 営 協 議 会 だ よ り

第5号

代表 近藤 弘文 校長 竹村 郷

第5回地域協働学校運営協議会が開催されましたので、議事の概要をご報告します。

■日 時 令和元年10月8日 17:00～18:20

■場 所 落合第六小学校 視聴覚室

■司 会 副校長 庖刀 由利子

【校長挨拶】

子どもたちは学芸会の準備に入り、台本を読み込み、当日に向けて練習を始めました。どの学年も、とても期待できる内容となっておりますので、ぜひ子どもたちの姿を観にいらしてください。

本日は、東洋経済に掲載されていた記事について、議論していただきたいと思います。

【記事の内容について】

全米で広がる格差解消の秘策として、貧困地区から移転するという方法が紹介されている。研究では、幼少期に過ごした地域の環境が、貧困を抜け出せるかどうかを左右する現実を示唆している。

【意見交換】

- ・最近読んだ新聞でも、両親の学歴や年収による格差の記事を読んだ。家庭で新聞購読をしているか、どんなテレビ番組を見ているか、親子の会話内容など、家庭環境は子どもの成長に大きく影響を与えているようだ。
- ・小さい頃から勉強方法を家庭で教え、塾に通うなど、親の学歴・収入による格差は実際にあるかも知れないが、勉強だけでなく、子どもが自分に自信を持てる何かがあれば、良いのではないか。
- ・教育はすべての子どもに平等であるべきで、朝の読み聞かせや放課後学習など、良い活動だと思う。
- ・図書館が近くにある環境は、とても恵まれている。3年生では図書館の協力で「ビブリオバトル」の開催し、大人顔負けの発表をしていた。
- ・中学受験の人数は毎年違うが、増加傾向にあり、それぞれの家庭で進学については考え方が違う。昔と今では、中学受験も変化している。公立小学校・中学校でも、伸びる子は伸びる。
- ・最近は女子の影響力が強くなっているように見受けられる。小中学生くらいでは、女子の方がしっかりしている。
- ・日本の核家族化が良くなかったと思う。幼少期、苦勞した子でも、大器晩成の子もいる。本人の意志・興味で子どもの成長は変わってくる。
- ・子どもは親を選べない。親の心の豊かさで、子どもは変わってくる。心に余裕のある子育てが大切ではないか。
- ・発達障害があっても、環境によりすごい力が発揮できる。人間関係も大切で、出会った人への憧れや目標とすることで、子どもは刺激をもらえる。
- ・落合の中でも、落六小の子どもたちは昔から落ち着いているので、いろいろな活動も進めやすい。全校遠足の総選挙など、他の学校ではなかなかできない取り組みだと思う。高学年が低学年の面倒をよく見て、良いお手本になっていることが良い影響を与えていると思う。
- ・経済的な評価だけでなく、人間の価値はいろいろな尺度で測るべきではないか。勉強だけでなく、将来の職業はさまざまな選択肢があり、すべての子どもにチャンスを与えたい。
- ・学校では、子どもにいろいろな経験をさせるという、大事な役割がある。

【次回の予定】

11月12日(火) 17:00～ 落合第六小学校 視聴覚室にて

【出席者】

近藤 弘文、原田 榮、橋田 稔、亀井 治子、篠田 邦子、舘 次郎、
鈴木 正実(西落合図書館 館長)、遠藤 剛(落合第二地区 特別出張所 所長)、
水上 真理(書記兼務)、竹村 郷、庖刀 由利子、大森 伸保(教育支援課地域家庭教育係)